



自己紹介

大淵由貴（おおぶちゆき）1988年東京都江戸川区出身。千葉大学法経学部総合政策学科卒。大学時代は環境NGOの活動に従事、また休学してバンクーバーでワーホリを経験。卒業後、電機メーカーで5年間営業を勤め、会社を退職して青年海外協力隊としてマダガスカルで活動中。

家族のいないヒヨコ

先日伺った家に、まだ小さいヒヨコが一匹。聞いたところお母さんも兄弟も皆死んでしまったそう。お母さん鶏の後をひよこひよこ着いていく姿が可愛いヒヨコ。しかしお母さんがいないとどうするのかな？と思っていたら人間にひよこひよこついていきます。私たちが庭の中を少しでも移動するとひよこひよこ。ヒヨコの本能を垣間見ました。



第1回大統領選挙の様子

～選挙の日は国民の祝日に～

11月7日(木)に第一回大統領選挙の投票が行われました。

<投票日前日>

直前まで広報活動するんじゃないの？と思っていたら、投票日前日には候補者のありとあらゆるポスターが剥がされ、掲示板も解体。候補者の歌が流れることもなく静かな一日となりました。

<投票日当日>

私の住んでいる地域は小学校が会場です。**大統領選の投票日は祝日**にすることが法律で定められており、あらゆる行政機関がお休みです（日本大使館も休館）。しかし、多くの公務員が投票所の手伝いに従事。これでは行政機関は成り立たないですね。

2週間程度前に投票券を行政村の施設に受け取りに行き、当日は受付をして投票用紙をもらいます。**投票用紙には候補者36名の顔写真がA3カラー印刷**されていて、ボックスに☑を入れるだけとなっています。文字が読めない、書けない人への配慮と思われます。投票箱は不正防止のために布で覆われたスペースに設置されており、中に1人ずつ入って投票します。開票は地区ごとにその日のうちに行われ、**開票作業の様子を写真に撮ってSNSに投稿**している人もいました。（日本だったら捕まりそうですが、SNSで公開することで透明性が確保されているのかも…?）

投票に行ったかどうか同僚や近所に人に聞いてみました。遠くて行けなかった、好きな候補者がいなくて行かなかった等、これは日本でもある理由です。が、選挙名簿に名前がなく、投票券を受け取れなかった人もいました。理由は不明ですが、きちんと選挙を運営することも簡単ではないのです。

<結果>

過半数以上の得票をもって大統領に当選となります。第一回投票で過半数を超える候補者はいなかったため、トップの2人を候補に第二回投票が行われることになる予定です。トップの2人は30%代の得票率。残りの候補者に投票した人たちや投票に行かなかった人たちがどちらに投票するか注目です。

雑草を使った炭作り ～なかなか火が付きません～

アンズズルベで炭といったら、ほとんどがユーカリを使った木炭です。農村では木炭は換金商品で農家さん自身はあまり自分たちでは使いません。薪の使用量減、すでにある物で作れるということで、「**雑草を使った炭作り**」に農家さんとチャレンジしました。

燃やして炭化させた雑草、乾燥した牛糞、粘土を混ぜ合わせ形成し、乾燥させます。一見簡単そうに見えますがなかなか火が付きやすい良質な炭はできません。材料の特徴は農家さんの方が断然詳しいので、色々聞きながら、分量を変えたりしつつ試行錯誤中です。



選挙前日に町に貼り出されたポスター。マダガスカルがどんな発展を遂げてほしいですか？と投票への参加を呼び掛けるものです。

